

独話における「語り出し」の指導

櫻 本 明 美*

1. 「話し聞く」活動に生きる「語り」の力

独話は「ひとりの人が、大勢の人を前にして自分だけしゃべること。speak alone」を意味する¹⁾。小学校段階における「話すこと・聞くこと」の学習活動においては、「紹介」「研究発表」「報告」「スピーチ」「物語ること」などがこれに当たる。

また、ここで言う「語り」は、「物語ること」そのものであるが、それだけでなく「紹介」や「スピーチ」などの中にも取り入れられる。それは、「ひとまとまりの出来事を、相手がその話に引き込まれるように筋道立てに工夫して伝えること」²⁾であり、聞き手の想像力や感性に直接働きかけるものである。

「話すこと、聞くこと」の指導で、このような「語り」の機能に着目することの有効性は、すでに別の機会に明らかにしている³⁾。また、ここでは「語り」に着目した学習指導を考えるうえでのヒントも提示した。それは、次に示す通りであるが、これらは、子どものスピーチにおける実態調査の分析結果から得られたことである。

- ・ 5～10文程度のスピーチの中に、具体的な出来事や聞いたこと、読んだ話などの一まとまりの内容を入れて語るようにすること
 - ・ 筋立てに沿って語るようにすること（たとえば、物語のあらすじを紹介するようなことが、この力に培うことになる）
- ☆・ 問いかける、あいつちを求めるなどの方法で、聞き手を話に引き入れるための工夫ができるようにすること

また、これからの言語生活を拓くうえで、次の寿岳章子氏の提言などにも留意しておきたい。

* 本学助教授

若者は、様々な言葉の世界をつくり出すが、同時に、古きよきものにも心を使って生きていてもらいたい。日本語が、見事に自分を語り、人に伝えられる言葉であることを願っている。一生懸命にそれぞれが言葉の問題を考えるときに、そういう方向に達することができる⁴⁾。
(下線は引用者)

ここでいう「言葉の世界」における「古きよきもの」の一つとして、「語り」の文化が挙げられる。

そこで、「語り」の機能に着目し、語ることの学習指導を考える。ここでは、左段枠内の☆印で示したヒントのうち、3点目の「問いかける、あいつちを求めるなどの方法で、聞き手を話に引き入れるための工夫ができるようにすること」に焦点をあてて考える。「聞き手を話に引き入れるための工夫」の要として「語り出し」に着目することが有効であろうという仮説をもって、本研究に取り組んだ。

2. 独話における「語り出し」の指導のねらい

(1) 「語り出し」の意味

作文指導の着眼点の一つに「書き出し」がある。作文の場合、「書き出し」とは最初の1文、あるいは冒頭にあるひとまとまりの内容をもつ段落をさす。そこに話題提示や状況設定などをして読者の関心を引いたり、本題への導入にしたりするのであるが、1文で表現するのが難しい場合には、短い1～2段落になる。このような働きをする部分を、ここでは文章の「書き出し」に対応させて独話の「語り出し」と呼ぶことにする。

(2) 「語り出し」の役割

本論文では、独話の中の「語り」における「語り出し」に着目する。

ところで、同じ言語表現であっても、「文章に書くこと」と「話すこと」には伝わり方などに違いがある。したがって、話し言葉の特性を念頭において「語り出し」の役割を把握し、その指導について考える必要がある。

① 諸論に学ぶ

a アナウンサーの工夫

—三宅民夫・草野満代両氏の場合—

アナウンサーの三宅民夫氏は、『NHK 素敵なのはなしことば』⁵⁾の中で、「少しでも多くの方に、より印象的に発見やメッセージを伝えたい、という努力の積み重ね」のなかで気づいた「ひきつけ上手のための三つのポイント」を示し次のように述べている。

- ・初めの一言で「えっ？何だって?!」と、**聞き耳**をたてたくなり、
- ・続いて「ほーッ！そういう面があったの！」と、**発見**し、
- ・締めのことばで「なるほど、そうか」と、**納得**する。

「えっ?」「ほーッ!」「なるほど」。

これこそ、ひきつけ上手なスピーチに欠かせない、大切な三つのポイントと考えるのです。

(太字ママ)

この説明には、歴史番組での「聖徳太子の十七条憲法」に関する短いスタジオレポートの例が添えられている。その「初めの一言」すなわち「語り出し」にあたる部分を二通り示して比較し、聞き手をよりひきつける効果が具体的に分かるようにしている。例の該当部分は、次の通りである。

(イ) 「和をもって貴としとなす」で始まり、第二条で「篤く三宝を敬え」と、仏教の崇拝を説いていますね。

この三条をごらんください。…以下略

(ロ) 「和をもって貴としとなす」で始まり道徳的な心得を説いているように見えますが、実

は、それだけではないのです。

第三条をご覧ください。…以下略

(下線は引用者)

この2例のうち、三宅氏は、「(ロ)のほうが鮮明に内容が伝わりひきつけられる」としている。確かに、聞き手をひきつける工夫として効果が期待できるものである。

要するに、「語り出し」の役割の一つに、聞き手を「えっ」と思わせ話に聞き耳を立てたくなるようにさせるということが挙げられる。

また、草野満代氏は、入局したばかりのころ、多くの人の前で話したときに緊張のあまり貧血をおこして倒れてしまったという経験をもつという。それぐらい、人前で話をするには緊張感が伴うのだということである。そして、その緊張感をやわらげる「自分なりのコツ」を見つけ身につけることを勧めておられる。

草野氏は、豊富な経験の中から見いだした次のような緊張解消法を紹介している⁶⁾。

まず話の冒頭で、会場を見渡し、聴衆の皆さんの顔を見て、その場で思いついたことを話しかけるんです。例えば、「今日は若い女性が多いですね」とか「外は寒いですが会場は暖かいので、皆さんどうぞ上着は取って聞いてください」とか、話しかけることはどんな小さいことでもいいと思います。そうすると、聴衆の方との距離がぐっと縮まります。

この言葉から、「語り出し」は、語り手・聞き手双方の緊張感をほぐすという役割を果たすこともあることが分かる。

b 金田一春彦氏の論述から

金田一春彦氏は、話し言葉における場合、「前置き→本論→後添え」と筋立てるのがふつうだとしている。

氏は、話の最初を「切り出し」とも呼んでいる。しかし、話の中には、本論から始める場合もあり、そのような場合の最初のことばを意味する「切り出し」と「前置き」とは区別しておく必要がある。氏の考え方に照らしていえば、「語り出し」は、「前置き」に当たる。そこで、氏の論述中、「前置

き」について述べた次の部分⁷⁾からも、その役割を確かめる。

前置きはどんな効果があるか——というと、《聞き手を、本論を聞きやすい状態にさせる》ということである。——どうも堅苦しい雰囲気、うちとけて話が聞けないが、いったい、これからどんな話が始まるんだろう？この話し手はどんな人なんだろう？われわれにとって敵か味方か？——といった緊張から、聞き手を開放して、本論がスムーズに聞き手の頭の中に入って行くようにし向けるためのもの——つまり、《聞き手の心の扉を開く》ためのもの、それが前置きだ。だから、初対面の人に対する話の場合などは前置きはぜひ必要だ。〈扉を開く〉とは、大別して、

【一】聞き手の気持ちをときほぐす

【二】聞き手の理解の便をはかる

の二つと考えられる。

(下線は引用者)

上に示した金田一氏の論述から、「語り出し」は、先の三宅氏の言う「聞き耳を立てさせる」に加えて「聞き手の気持ちのときほぐし」「聞き手の理解の促進」などの役割を果たすものと言うことができる。

② 話すことに関する子どもの意識から

強い緊張感や不安感から、みんなの前で「独りで話すこと」に苦手意識をもっている子は少なくない。実際、「話すこと」について記述する方法でおこなった意識調査(対象・大阪市立茨田北小学校 第5学年29名 平成12年2月実施)によると、約6割(29名中18名)がこのことを書いている。

先に示した草野氏の場合と同様、子どもにとっても、「独話」においては、話し手の側の気持ちのときほぐしが必要なのである。

この点について、同調査で得られた次のような子どもの言葉にも注目しておきたい。

- はじめは緊張するけど、あとから慣れてくるとすぐに言いやすくなってから、スピー

チはおもしろい。

- スピーチのときには、すごいと思われるかな、どんな質問がくるかなという気持ちで言っています。
- この前の4コマのお話のなかで、みんな聞いている人におもしろいように、大阪弁や言い方を工夫して言っていました。そのときは、自分も楽しかったです。
- わたしはいつも、人にお話をするとき一度考えてからします。よく間違えるので、そうしています。でも、本番のとき、緊張して心臓がバクバクして、うまく話しができません。でも、一度言い始めると、話にのってきて、緊張をしなくなります。
- わたしは、初めて会う人や大勢の人の前では、何を話せばよいか、何を話すんだったかが分からなくなって、頭の中がごちゃごちゃになることがある。だれでもあることだ。そういうとき、ああ、どうしようと思いつつ、わたしは話がつながるようにする。たとえばこんな時だ。毎日、日直がやるスピーチ。こんなこと、あんなことをこうやって話そう、と決めていると、すぐ出番がくる。すると、何を言うんだっけーと頭の中が混乱しそうになる。でも、一応、話を進めていく。そして、質問されるときがある。何人かに質問されると、まだまだ。反対にシーンとしていると、悩む。
- ギャグとか言って受けたときはうれしいけれど、受けないときはシーンとして嫌な感じになる。だから、言うとき、おもしろいことを言いたい。

*下線は引用者による。

これらの言葉から、子どもが自信のもてる「語り出し」にすることが、スピーチなど独話に対する苦手意識の克服につながっていくのではないかと考える。また、その際に、

- 聞き手に問いかけたり、逆に聞き手から質問を受けたりすることを取り入れること
- 方言を生かすこと

などは、子どもにとってあまり無理のない工夫のしかたと見ることができる。

③ まとめ

以上、①・②を考え合わせると、「語り出し」の役割は次の3点にまとめられる。

- 聞き手を引きつける
- 聞き手・話し手双方の気持ちを解きほぐす
- 聞き手に予備知識を提供して理解しやすくする

(3) 「語り出し」の指導のねらい

独話における「語り出し」の指導にあたって、ねらいは、先に示した3つの役割が十分に活かされるように表現を工夫し、話したり聞いたりすることが楽しめるようにすることである。

このことに加えて、次の大村はま氏の言葉⁸⁾も念頭に置いておきたい。

徒競走のとき、スタートでの失敗というのは、小さなものでもなかなか取り返しがつかないものなどということ、また、ちょっとした線を引いてみても、基点でのちょっとの向きの違いが、先へ行けば行くほど開いていしまうことなども思い出しました。それでじっと見ていまして、書き出しの点においてこの文章はだいたい大丈夫という方向をつけなくてはならない。それが指導というものだろうと思ったのです。

大村氏は文章の書き出しについて述べているのであるが、このことは話しことばにも当てはまる。話すこと、とりわけ独話の指導において、「語り出し」は、一つのポイントなのである。

3. 「語り出し」の学習指導事例

— 「とっておきの話」(第5学年) —

以上の考えにもとづき、「語り出し」の役割に着目して、子どもの独話力を伸ばす学習指導の場を設け実践を試みた。授業は次のような計画に拠るものである。

大阪市立茨田北小学校5年3組において下田智子教諭により、1999年12月上旬～中旬に実践した。

なお、「語り」の素材に「4コマまんが」を用いたのは、次のような点で有効だと考えたからである。

- ・どの子ども、語るが見つけやすい。
- ・話の全体が4コマの絵で具体化されていて、話し手は全体のイメージを描きながら一まとまりの語りに行ることができる。
- ・笑いを呼び起こすという楽しさが、語り聞く意欲をも喚起する。

(1) 単元のねらい

単元名を「一人一話『とっておきの話』を語ろう—『笑い』をテーマに—」とした。次の4点にねらいをおいた。

- ・「語り」を聞いたり話したりして楽しむことができる。
- ・400字～600字程度の長さで、一まとまりの話ができる。
- ・聞き手の興味がより高まるように、相手や話題に応じて「語り出し」を工夫することができる。
- ・できるだけ自然な話しぶりで語ることができる。

(2) 学習指導展開の概容

次の学習指導計画に拠って、学習活動が展開された。全7時間である。このうち、「語り出し」について考え実際に工夫を加える学習が実施されたのは、第4時である。

以下には、各時間の学習指導展開の概容を記す。

〈第1時〉 「4コマまんが」をヒントにして、自分の「とっておきの話」をもつことへの意欲を高める。

- ① 「笑い話」のよさに気づく。
 - ・指導者の短い語りを聞く。
 - ・「笑い話」のよさについて考え、それが人の心をなごませコミュニケーションの場を生むきっかけにもなることに気づく。
- ② 一つの「4コマまんが」で、コマを追いつつ口頭で筋を語ってみることで、自分の「とっ

ておきの話」をもつことへの意欲を高める。

- ・指導者が掲示した「4コマまんが」のコマを順に追いながら口頭で自由にお話をつなぎ、語り聞き合うことを楽しむ。
- ・この方法で自分の「とっておきの話」ができそうだとすることに気づき、また、そのよさも想起して、語ることへの意欲をもつ。
- ・聞き手となる対象を決める。(他学年、老人施設の人など)
- ・次時までの課題を確認する。…指導者が準備したまんがの本も参考にして、各自、「4コマまんが」2～3点を選んでおく。なお、自作もよいことを知る。

〈第2時〉 各自、語りにつなげたい「4コマまんが」1点を選び、話の大体の筋をつくり題も決める。

- ① 一人一人が見つめてきたものをグループで交流し、聞き手側の意見も参考にして一人一点を選ぶ。
- ② 口頭で話の大体の筋を言ってみたり、それを書きとめたりする。
- ③ 題を決める。

〈第3時〉 300～400字程度の長さになるように話をつくり、原稿用紙に書いてみる。

- ① 誰が聞き手かを再確認し、「語る」ことを前提にしたことばを選び、文末表現、会話文の入れ方、字数などの留意事項を確認する。
- ② 語りのための原稿を完成する。
*書き上げたら、音声化をしてみて推敲するように指示する。

〈第4時〉 「語り出し」の工夫を書き加える。

- ① 「語り出し」の工夫例を知り、その役割を考える。
・「語り出し」の工夫例を知る。
*民話集の中から「語り出し」の例を選んでプリントして配布し、「語り出し」にあたる部分の有無を比較することで、その役割に気づかせる。

プリントによる提示文例

(太字は「語り出し」の部分を表す)

- a 昔、**富田林から塚へ行くのんは**、平尾峠を越えて行ってましてん。このあたりは、大きな木がうっそうとしげって昼でもうす暗うて、それは気味の悪い所ですねん。キツネやタヌキがおって、キツネにだまされたいう話よう聞きましたで。そやけど塚へ行くには、この道が近道なんで、皆この峠を越えて行きましたんや。

そやなあ、こんな話聞いたことありますか？

ある日、たい平さんという人が、近所の源治さんをさそうて、塚へ買い物に出かけましたんや。…以下略。(「峠のキツネ」より)

- b むかーしむかーし、といたいとこやけど、それがちゃうねん。今でもこない話があるいうのん、わたしらも信じられへん。富田林の金剛団地であった、タヌキの悲しい悲しい話なんや。

「ポンタ、あんたはこのごろ、お母ちゃんがよう言うて聞かしてんのに、なーんも言うときかんと、…以下略。

(「タンタンタヌキのお里はどこじゃ」より)

*富田林民話研究クラブ編著『富田林の民話』から抜粋。児童が読みやすいように、少し手を加えた。

例aは、先に示した「語り出し」の3つの役割のうち、聞き手に予備知識を提供して理解しやすくする・聞き手を引きつけるなどの効果が期待できる。例bは、意外性で聞き手を引きつけ共感を呼んで、聞き手・話し手双方の気持ちを解きほぐす。また、聞き手に予備知識を提供して理解しやすくする部分も含まれている。

- ・工夫例をもとに、「語り出し」の役割を考えて話し合い、自分の話に「語り出し」の部分を工夫して加えようという意欲をもつ。
- ② 相手や話の内容に応じた「語り出し」のことばを100字程度で書き加え、語りの全体を語ってみて推敲する。

〈第5時〉 原稿を見ないで語ることができるように、2～3人組で練習する。

・まず原稿を手元において、次に「4コマまんが」を見ながら、そして原稿を見ないで、というように一人一人が自分に合った方法で練習に取り組む。

*カセットテープ録音、ビデオ録画なども可能な限り児童が自由に活用できるようにする。

〈第6時〉 6人ぐらいのグループで聞き合い、相互評価を推敲に生かす。

〈第7時〉 「とっておきの話」を語る会を実施する。

*本時は、学級内での発表会に充てた。単元導入時に「語る」対象を同学年他学級児として取り組んできたので、その交流の場に臨むためのリハーサルの意味あいをもつ。(この語りをテープに収め、本研究の考察対象とした。)

なお、他学級との「とっておきの話」を語る交流会は、後日、講堂を会場に、いわゆる屋台形式をとって実施したが、国語科の時間としては計上していない。

(3) 「語り」の実際

上記の学習過程をたどって、適宜、個別指導もおこないながら進めた。その結果、一人一話の語りができた。

学習状況を把握するにあたって、「語り」の実際の録音テープを聞いて話しことばをそのまま文字化し、それを個々の原稿コピーに書き込むという方法をとった。そうして、一人一人の「語り」の実際を確かめた。その例を資料No.1として本論文末(pp.10～11)に示す。

なお、原稿作成の過程では、約600字という分量を意識することができるようにするため、まず目入りの原稿用紙を使用した。しかし、完成の段階では、指導者が作成した用紙に書いている。

学習者全員の「語り出し」については、この学習で生まれた「語り出し」のすべてをここに記すことは避け、以下の考察の過程で必要に応じて例示する。

4. 「語り出し」の指導に関する考察 —実践結果にもとづいて—

(1) 単純な話題提示から多様な「語り出し」へ
この実践で、どの程度ねらいに迫ることができたのだろうか。それを確かめるために、個々の語りの「語り出し」について分析・分類を試みた。

そのために、まず実際に語られた「語り出し」をていねいに見直した。そして、そこから読み取ることが出来た事柄を先の3つの役割の下位項目としたり、さらに新たな項目として加えたりして、「語り出し」の役割を再考した。このようにして立てた項目を観点に、それぞれの「語り出し」がその語りにおいてどのような可能性をもつものになっていたのかを確かめてみた。

設定した観点項目は、次の通りである。

○「語り出し」の役割

- | | |
|---|--------------|
| A | 単純な話題提示 |
| B | 気持ちのときほぐし |
| a | 知識・体験の共有化 |
| b | 体験の紹介 |
| c | 自己人物紹介 |
| d | 知人・有名人のエピソード |
| e | その他 |
| C | 予備知識の提供 |
| a | 話題に関する説明 |
| b | 内容のアウトラインの紹介 |
| c | 登場人物の紹介 |
| d | 状況の説明・描写 |
| e | その他 |
| D | 期待感の喚起 |
| E | 意外性・発想の転換 |

これらの役割は、表現上の工夫によって具現化されているものである。そこで、「語り出し」の役割に着目して設定した上記項目に加えて、その役割を果たす表現にするための工夫についても見ておくことにした。

ところで、「語り」の実際においては、具体物の提示や音声の調子の変化、身ぶりなども大切な

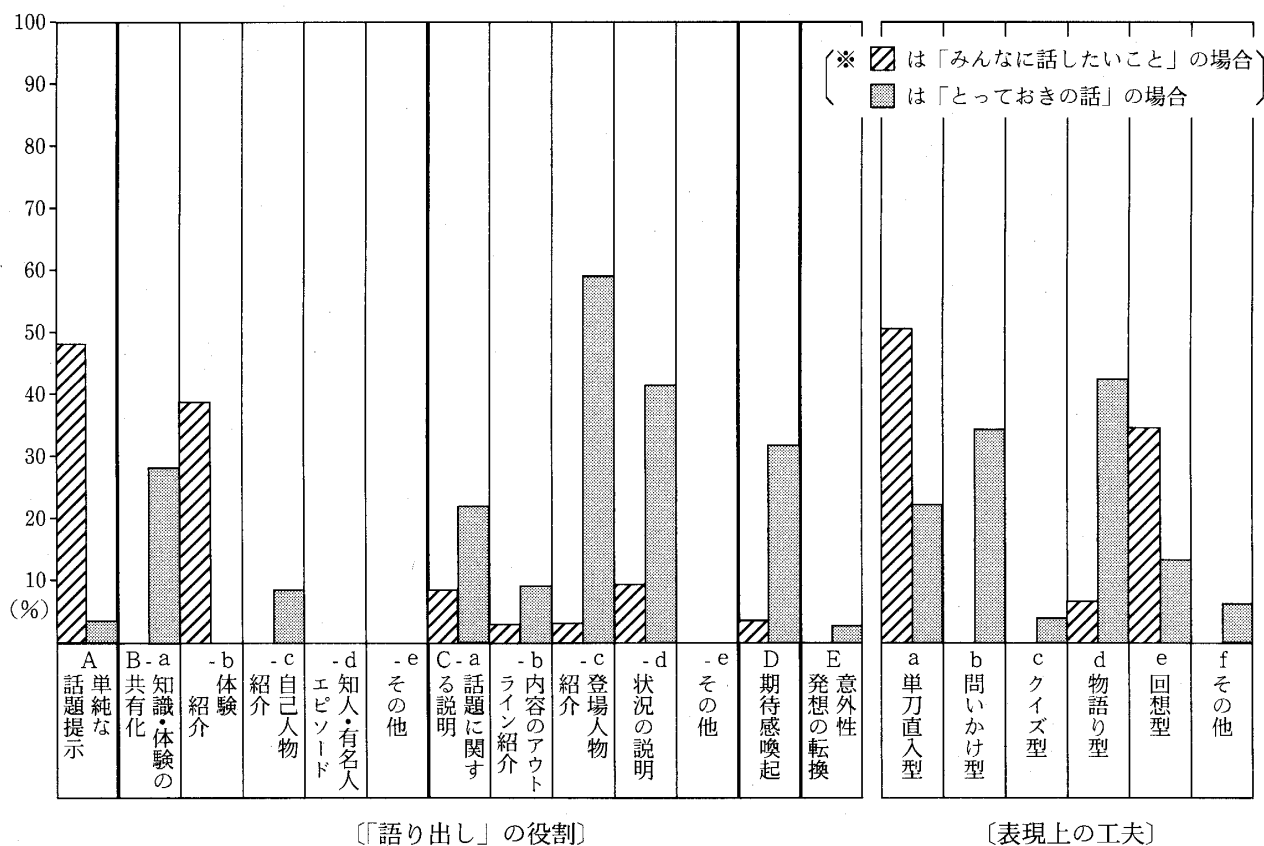
魅力づくりの要素である。この点を十分承知しながらも、今回の分析では言語表現の工夫に限って見ていく。

○表現上の工夫

- a 単刀直入型
- b 問いかけ型
- c クイズ型
- d 物語り型
- e 回想型
- f その他

以上の観点によって、個々の「語り」の実際を確かめ、表に整理していった。また、この学級の子どもたちが、本学習の約1か月前に「みんなに話したいこと」として語ったスピーチの「語り出し」の記録についても、同様の分析・分類を試みた。それが資料No.2の〈表1〉と〈表2〉である。(pp.12~13を参照)

〈表1〉と〈表2〉を比較してみることができるよう、グラフにもしてみた。それは、次の通りである。



この分析結果から、まずは「とっておきの話」における「語り出し」が多様になっていることが分かる。

それらは「みんなに話したいこと」とは話題が異なっている。その点を考慮しても、「語り出し」の意識化によって、そこに多様性が生まれてきたことは確かである。両方の結果を比べてみると、「とっておきの話」では、とりわけ「A 単純な話題提示」が大幅に減り「○○は、……です。

(しました。)」に類するものが少なくなった。それに伴ってか、多様化した中でも「B-a 知識・体験の共有化」「C-a 話題に関する説明」「C-d 状況の説明」「D 期待感の喚起」などが増えている。このことは、相手意識がより確かになっていることを表していると見ることができる。もし、「みんなに話したいこと」においても「語り出し」が意識化されていれば、BCDに該当するものは、もっと増えていたかも知れない。

(2) 表現上の工夫

子どもたちは、表現にもいろいろ工夫している。そして、ここに見られる工夫は、どの話題にも通用するものである。独話で「スタートの失敗」をさせてしまわないためにも、これらの工夫例を子どもに提示し、選択したりヒントにしたりできるようにする必要がある。

グラフから分かる通り、「とっておきの話」の方が「b 問いかけ型」や「c クイズ型」「d 物語り型」などの工夫をより多く生み出す結果となっている。子どもの意識（本論文 p. ～p. を参照）からみても、それらの工夫にはなじみがあり、意識さえすれば難なく取り入れられるものと考えられる。

(3) 「語り出し」と「結び」の呼応

語り出しがその一まとまりの語りに生きたものとなっていたかどうかを確かめるために「結び」との呼応に着目してみることも必要であろうと考える。

この点について、本授業では、特に意識付けをしたわけではない。しかし、「語り出し」に工夫したことが、締めまりのある「結び」を導きだしていくようである。

そのことを窺わせる好例は、次に挙げる②、⑤、⑫などである。

② 「エット、あなたは、エット、夜眠れないという経験がありますか。これは、夜暑くて眠れないたまおさんの話から入ります。それ以外に出てくる人は、ことねさんやたまえの娘のとまあ、息子のたくまが出てきます。」

これは、夏のある蒸し暑い夜のことでした。たまおさんが、…中略…

偶然で、こわいですね。

⑤ 「ハムスターっていうかわいい動物を知ってる？毎日毎日、ペットショップで、すてきな飼い主さんをまってるよ。あっ、一人、ペットショップへ入っていききましたよ。ハムスターを選んでみたいです。実は、このお話は、わたしが同じペットショップでハムスターを選んでいる

ときに、寺前さんに聞いたお話です。」

あるペットショップにハムスターがいました。…中略…

なんて、おっちょこちょいなハムスターでしょう。もしかしたら、あなたのポケットに入っているかもしれませんよ。

⑫ 「これは、わたしが作った話やねんけど、夢でみた話やねんけど、聞いてくれませんか？ある所に、ヨッシーアイランドというしまがありました。ヨッシーアイランドとは、私たちが暮らす、今だけ平和な島です。いろいろな野菜やくだものが作られています。たとえば、たまねぎなどが作られています。それに、木や花もいっぱい植えられて、緑がいっぱいです。その中で、わたしたちが幸せそうに暮らしています。でも、本当にヨッシーアイランドはしあわせなのでしょう。」

ここは、今だけ平和なヨッシーアイランド。…中略…

とんでとんで、最後の頁の15頁をあけると、とても悪いヒロキが自分のわなにひっかかかって、わたしたちは「とっても幸せな木」を取り戻したところだったとき。めでたしめでたし。

因みに、「みんなに話したいこと」の場合「結び」のある語りは11例であった。ただ、それらは、ほとんどが「楽しかったです」に類する簡単な所感にとどまっている。次のようなものである。

(例) ① 児の語り

○ ぼくがこのごろ凝っているのは、工作をすることです。

ウット、前に、鳥のえさ台とか、鳥の水のみ場と、台みたいなのをつくりました。…中略…

今度は、小さくてもいいから、動物、好きな動物の置物みたいなのを木でいろいろ作ってみたいなーと思っています。

⑩ 児の語り

○ この前、こわさんとつちださんとはしづめさんと一緒に遊びました。

昼ごはんを自分たちで作ってきて食べました。

…中略…

でも、楽しかったです。

一方、「とっておきの話」では10例で、数の上での大きな違いはない。しかし、次の「② ぴったし」と題するもののように、話全体を締めくくり、聞き手に余韻の共感を促すような結びが見受けられる点は、注目に値する。

(例) ②児の語り

○ エット、あなたは、エット、夜眠れないという経験がありますか。これは、夜暑くて眠れないたまおさんの話から入ります。それ以外に出てくる人は、ことねさんやたまえの娘ともえ、息子のたくまが出てきます。

これは、夏のあるむしあつい夜のことでした。

…中略…

偶然で、こわいですね。

このほかに、「⑤空飛ぶおうち」の結び〈もしかしたら、あなたのポケットに入っているかもしれませんが〉「⑩ ひきょう者でございます」の〈その後、ぼくを見た者はないという〉などは、聞き手にさらなる想像を呼び起こすものである。

「⑫ 方向おんちのサラリーマン」などのように、笑いを誘い出すような結末も4例ある。

⑫児の語り

○ このサラリーマンは、みんなから方向おんちと言われています。なぜ方向おんちと言われているかという、駅まで行くのに同じ道を何回も通っているからです。これは、そのサラリーマンの話です。

ある冬の寒い日、サラリーマンが駅に行こうとしているのに、なかなか駅につきません。

…中略…

あれ、また同じ場所じゃないか。

「⑫ ヨッシーアイランドのできごと」の場合は、「これは、わたしが作った話やねんけど、夢でみた話やねんけど、聞いてくれませんか？」と語り出している。さらに、その話の舞台になるヨッシーアイランドという島の様子の簡単な紹介があり、「でも、本当にヨッシーアイランドは幸せなのではないか」と問いかけて、本題に入る。そし

て、話は「めでたしめでたし」という言葉で結ばれている。これは、物語りの結びの一つの型を取り入れているものである。

以上のように、「語り出し」の工夫は、

- ・結びを端的に表現したり物語りの型を踏まえたりして締めりのあるものにする
- ・聞き手にさらなる想像を呼び起こす
- ・聞き手の笑いを誘う

など、「結び」の工夫にまで及んでいることが分かる。

(4) 日常の話しことばとのつながりを

この学級では、朝の会の時間に、日直がスピーチをしているとのことである。そこで、この学習後のある日のスピーチを録音して、そこでの「語り出し」がどのようなものであったかを確認してみた。

⑫、⑲、⑳の児童のものである。「とっておきの話」では、三者とも、問いかけ型を取り入れるなど、聞き手を意識し話に引き込む「語り出し」ができた。しかし、残念ながら、日常の語りには、まだそれが活かされていない。

この点については、他の子どもたちについても個々の確かめが必要である。ただ、この3名に限って言えば、国語科に限らず機会をとらえて、適宜「語り出し」の学習を想起させ、その意識づけを繰り返しつつ、話すことの経験を重ねさせていくことが有効ではないかと考える。

5. 今後の課題

1回の学習経験が子どもの「話すこと」への意識を変え話し振りを変えることは、まれである。それほど、「話すこと」とりわけ独話には、言語能力面での問題だけでなく、心理的な抵抗感もつきまとう。その問題点の解消に「語り出し」の指導が一つのきっかけをつくることになり、ひいては、話し聞くことを楽しむことができるような「独話」力の向上につながっていくのではないだろうか。

本論文は、第5学年での事例にもとづいて考察

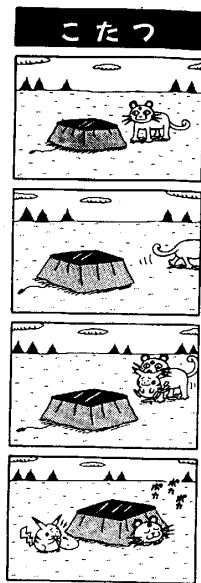
を試みたものであるが、対象をもう少し広げること
も必要である。また、話題を変えたとき、子ども
たちが「語り出し」をどうするのかということ
についても、確かめてみたい。語る場席がどのよ
うであるのかと言う点の違いによっても、「語り
出し」のあり方が変わってくるかもしれない。そ
う考えると、語りにおける条件を整理したうえで、
それぞれの場合における「語り出し」を考えてい
くことも必要である。

このように、さらに多様な角度からこのテーマ
に迫ることで、より子どもの実態に即した指導法
が見出せるのではないかと考えている。その結果
を、たとえば「語り出し」の手引きのような具体
的な形で提示し、学習指導に資するものにしてい
きたい。

注

- 1) 『日本語大辞典』講談社 1989
- 2) 拙稿「音声言語による表現力を高める指導—『語
り』の機能に着目して—」『国語教育探究』第10号
国語教育探究の会 p.127
- 3) 注2) に詳しく論述している。
- 4) 「朝日新聞」1998.11.6付 紙上座談会の記事中の発
言から抜粋。
- 5) 日本放送協会編『NHK 素敵なはなしことば』
平成8年4月1日
- 6) 日本放送協会編『NHK 素敵なはなしことば』
1998年4月1日 pp.58~59
- 7) 金田一春彦『話し言葉の技術』講談社学術文庫
昭和52.3 p.154
- 8) 大村はま『書き出しの研究』『大村はま国語教室
第6巻』筑摩書房 1983.4 p.128

資料No. 1 <児童の表現例> ㊸



名前 M児	こたつ	
	語り出し	語り出し
とってまきの話 五年三組	ある日、おたつにこたつがけを介おいておし た。あたたかそうだな、私はこたつの電気が	つですか？ 考えてみて下さい。 はつの中から、れせん。あなはど たたまっています。かきり、なかか に入るのとすぐにでられなくて、す た、まるのが好きです。こたつの中 私は冬にこたつの中に入れてお

4	3	2
たたまっていました。	おはこたつの中に入りました。おとほは日 るまでまがゆけだ。またこたつの中はぬくも て、いせん。そしてだんだんぬくも まは、おたつの中に入りました。おとほは日 た、おたつの中に入りました。おとほは日	はいて、おたつの中に入りました。おとほは日 お、おたつの中に入りました。おとほは日 お、おたつの中に入りました。おとほは日

資料No.2 「語り出し」の分析・分類結果一覧表

〈表1〉「みんなに話したいこと」の語り出し

	A 単純な話題提示	B 気持ちのときほぐし					C 予備知識の提供					D 期待感の喚起	E 意外性・発想の転換	表現上の工夫						
		a 知識や経験の共有	b 体験の紹介	c 自己人物紹介	d 知人・有名人のエピソード	e その他	a 話題に関する説明	b 内容のアウトライ	c 登場人物紹介	d 状況の説明	e その他			a 単刀直入型	b 問いかけ型	c クイズ型	d 物語型	e 回想型	f その他 <small>・具体物の提示 ・音声化ぶり ・身ぶりなど</small>	
①	○													○						
②								○						○						
③							○					○		○						
④	○													○						
⑤	○													○						
⑥																				
⑦	○													○						
⑧	○													○						
⑨			○																○	
⑩			○																○	
⑪	○													○						
⑫			○																○	
⑬			○				○												○	
⑭			○																○	
⑮			○																○	
⑯			○																○	
⑰	○													○						
⑱	○													○						
⑲	○									○				○						
⑳			○							○									○	
㉑			○																○	
㉒	○													○						
㉓	○													○						
㉔			○																○	
㉕	○													○						
㉖								○	○							○				
㉗	○													○						
㉘	○													○						
㉙			○																○	
㉚	○													○						
㉛			○											○					○	
㉜			○											○					○	
③4							○									○				
合計	16	0	13	0	0	0	3	1	1	3	0	1	0	18	0	0	2	13	0	
%	48	0	39	0	0	0	9	3	3	9	0	3	0	55	0	0	6	39	0	

独話における「語り出し」の指導

〈表2〉「とっておきの話」の語り出し

	A 単純な話題提示	B 気持ちのときほぐし					C 予備知識の提供					D 期待感の喚起	E 意外性・発想の転換	表現上の工夫						
		a 知識や経験の共有化	b 体験の紹介	c 自己人物紹介	d 知人・有名人のエピソード	e その他	a 話題に関する説明	b 内容のアウトライン紹介	c 登場人物紹介	d 状況の説明	e その他			a 単刀直入型	b 問いかけ型	c クイズ型	d 物語型	e 回想型	f その他 <small>・具提示の ・音声化 ・身ぶりなど</small>	
①							○	○			○		○							
②		○						○							○					
③									○									○		
④		○						○							○					
⑤						○			○						○					実況中継型
⑥								○									○			
⑦						○		○									○			
⑧								○									○			
⑨	○													○						
⑩								○	○								○			
⑪								○	○								○			
⑫		○		○				○			○			○						
⑬								○	○		○	○					○			
⑭								○									○			
⑮		○				○										○				
⑯								○	○									○		
⑰		○				○					○				○				○	
⑱		○									○				○					
⑲								○	○		○							○		
⑳						○			○		○				○					
㉑		○				○		○							○					
㉒		○							○		○				○		○			断り
㉓						○		○	○								○			
㉔							○							○						
㉕								○						○						
㉖								○						○						
㉗																				
㉘				○				○	○		○				○			○		
㉙								○	○								○			
㉚		○		○											○					
㉛								○			○									
㉜	○												○				○			
合計	1	9	0	3	0	0	7	3	19	13	0	10	1	7	11	1	13	4	2	
%	3	27	0	9	0	0	21	9	59	41	0	31	3	22	34	3	41	13	6	